

7. 車両の安全性向上

(1) 車両の安全対策

▶運転士異常時列車停止装置

運転士の体調急変時などにおける安全を確保するため、ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキが作動する装置で、運転台のある全車両に設置しています。また、車掌室には、緊急時に車掌が扱う非常ブレーキスイッチも設置しています。



▶列車運転状況記録装置

事故・トラブルが発生した場合に、その原因究明や再発防止策の立案に役立つために、列車の速度や位置、時刻、運転士のハンドル操作状況、ATSの動作状況などを記録する装置を全編成に設置しています。

▶ドライブレコーダー

事故発生時に、必要に応じて現場の状況を確認するため、全編成に設置しています。

▶車両の転動防止ブレーキ

勾配のある駅などで停車しているときに扉を開けた状態で車両が転動するのを防止するために、京阪線、大津線の全ての車両に転動防止ブレーキ機能を設けています。

▶ホーム検知装置

扉操作誤りなどにより、ホームがない場所で扉を開けることによる転落事故を防止するため、京阪線の3000系・10000系・13000系および6000系・7000系・8000系の一部の編成、大津線全編成、鋼索線車両にホーム検知装置を設置しています。



▶連結面間転落防止装置

乗車時にお客さまが誤って車両の連結面間に転落する事故を防止するための装置です。京阪線全車両に設置しています。



▶戸挟み検知精度の向上

扉に人や物が挟まることによる事故を防止するため、京阪線と大津線の車両（一部車両を除く）で戸挟み検知精度の向上を図っています。また、細い杖等の扉挟み込みによる事故を防止するため可視光レーザーを照射し検出する装置を、2020年度以降に導入した13000系新造車および7000系の一部編成に採用しています。

▶車掌知らせ灯の視認性向上

扉が全て閉まったことを確認する車掌知らせ灯の見誤りによる事故を防止するために、車掌知らせ灯の大型化、レンズ周囲につや消し黒色化粧シートの貼り付け、高輝度タイプのLED採用など、車掌知らせ灯の視認性の向上を図っています。



▶非常脱出ハシゴ

非常時におけるお客さま避難誘導のさらなる迅速化を図るため、乗務員室に非常脱出ハシゴを設置しています。京阪線全編成及び大津線800系車両の乗務員室に設置しています。



非常脱出ハシゴ

▶車内防犯カメラ

車内のセキュリティ向上および犯罪の抑止を目的として、京阪線の新造車両およびリニューアル工事車両に対して車内防犯カメラの設置を進めています。



車内防犯カメラ

▶車内非常通報装置 (※)

インターホンタイプで、非常時に車内から運転士、車掌に連絡することができる装置。現在、大津線全車両と京阪線の3000系、6000系、7000系、7200系、8000系、9000系、10000系、13000系車両に設置しています。



▶非常ベル (※)

非常時に車内から乗務員に通報する手段に用いるもので「入」にすると運転士、車掌の乗務する運転室の非常ベルが鳴動し、「切」にするまで鳴り続けます。1000系、2200系、2400系、2600系車両に設置しています。



※車内非常通報装置、非常ベルは国土交通省のガイドラインに沿った共通ステッカーで表示をしています。

▶車椅子スペース

車椅子スペースは、1992年、700形車両に初めて設置。2023年3月31日現在、557両に設置している。今後、すべての新造、改造車両に設置する予定。また、2017年3月からはベビーカーご使用のお客さまにもご利用いただけるようベビーカーマークも明示している。



(2) より安全快適な車両を目指して

▶新型車両 13000 系の導入

安全性の向上やバリアフリー対応、環境への配慮に主眼をおいて開発し、2023 年度末時点で 113 両導入（3000 系からの編入車両 6 両除く）しています。オフセット衝突（車体前方の一部のみに負荷が加わるような衝突）対策など車体強度を向上させたほか、事故や急ブレーキ時における車内での事故防止策を施しました。また、車いすスペースや液晶式車内案内表示器を設置した他、荷棚の高さを低くするとともに、乗降口の扉端部と足元などにオレンジ色のラインを設けるなど、バリアフリー対応を充実しました。



13000 系車両



13000 系車両の車内

▶7000 系車両のリニューアル

2022 年度からバリアフリー対応やインテリアのグレードアップ、液晶型車内案内表示器の設置によるサービス向上などを目的にリニューアル工事を進めています。

あわせて、車内防犯カメラやホーム検知装置、戸挟み検知装置を設置するなど車内外の安全性向上を図ったほか、老朽化した制御装置などの機器を改修することで、故障に対する予防保全を図っています。2025 年度には 7000 系全編成（7 両×4 編成）のリニューアルが完了する予定です。



7000 系車両



7000 系車両リニューアル後の車内

▶8000 系車両のリニューアル

老朽化した制御装置などの機器を改修することで、故障に対する予防保全を図っています。

また、車内灯や行先表示器を LED 化することで省エネと保守の省力化を図っています。2023 年度末時点で 80 両中 56 両のリニューアル工事が完了しています。なお、2019 年度竣工車両よりホーム検知装置の搭載も行っています。その他、8000 系車両では窓ガラスの全てに遮熱・断熱効果のある機能性フィルムを貼付け空調効率の向上を図っています。



8000 系車両の LED 化された行先表示器